

日本消防検定協会 型式評価適合品 特評第202号

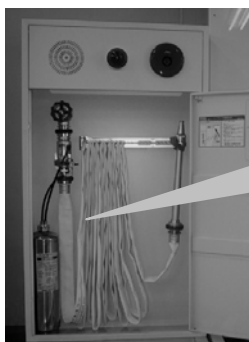
1号消火栓箱内蔵型 化学ユニット

ハイドラップ MFPP-5 型

取扱説明書

この度は『ハイドラップ/ MFPP - 5型』
をお買い上げいただき、ありがとうございます。
います。

ご使用前にこの「取扱説明書」を
よくお読みいただき、本製品を正しく
ご理解の上、ご使用ください。



設置例



モリタ宮田工業株式会社



安全上のご注意 ... 必ずお守りください！

お使いになる方や他の人々への危害、財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただきたい事項を次のように表示しています。

ご使用の際は、必ず取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

また、取扱説明書は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐ取り出して見られる場所に保管してください。

表示された指示内容を守らずに、誤った使用によって起こる危害および損害の度合いを、次のように説明しています。

 警告	この表示を守らずに、誤った使い方をすると、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容を示しています。
 注意	この表示を守らずに、誤った使い方をすると、「障害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容を示しています。

次の絵表示で、お守りいただきたい内容を区別して説明しています。



この表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。



この表示は、してはいけない「禁止」内容です。



この表示は、必ず実行していただきたい「強制」内容です。

警告



電気火災（C火災）、特殊金属火災、禁水性物質火災（D火災）および液化ガスの火災等の消火には使用しないでください。感電、爆発、延焼拡大の原因になります。



本製品を投げたり、落としたり、叩いたりなど、強い力や衝撃を与えないでください。破損することがあり、点検および消火作業中に破裂や破壊を起こす原因になります。



本製品を分解、または改造しないでください。点検および消火作業中に破裂や破壊を起こす原因になります。

警告



消火薬剤（メガフォーム F - 6 2 3 T）の取扱に際しては、安全データシート（MDS）を必ずお読みください。

* MDSがお手元ない場合は、取扱説明書裏面の連絡先にご要求ください。



消火薬剤が目に入らないように注意してください。痛みや異常が感じられる場合には直ちに清浄な大量の水で5分間以上洗い流してください。更に異常を感じる場合は、医師の診断を受けてください。



消火薬剤が皮膚に付着しないように注意してください。体質により皮膚を刺激する可能性がありますので水で洗い流してください。更に異常を感じる場合は、医師の診断を受けてください。



消火薬剤を吸引しないように注意してください。粘膜を刺激する可能性がありますので大量の水でうがいをしてください。更に異常を感じる場合は、医師の診断を受けてください。



消火薬剤を飲み込まないように注意してください。飲み込んだ場合は、吐き出させてください。更に異常を感じる場合は、医師の診断を受けてください。

注意



普通火災（A火災）および油火災（B火災）の消火以外の用途に使用すると危険です。



他の泡消火薬剤と混合して使用しないでください。



使用温度範囲（-10 ～ +30）外の温度になる可能性のある場所には設置しないでください。



使用に際しては、保護眼鏡や手袋等、適切な保護具を着用してください。

注意



消火薬剤および希釈液を廃棄する場合は、決して埋め立て処理や下水や河川に放流処理しないでください。自社で適正処理（適度に希釈し、処理槽に集めて活性汚泥処理）するか、または「含ハロゲン液状廃棄物」として適切な産業廃棄物処理業者に委託処理してください。本製品を使用し、放水した泡水溶液についても可能な限り回収し、同様の処理を行ってください。



放水した泡水溶液の回収不能分については、一般排出水の水質規制に則り多量の水で希釈廃棄してください。水質汚濁防止法の排出基準を定める総理府別表第2に規定された規制基準（BOD / CODとも160 mg / L）以下の値にするためには、約21倍に希釈する必要があります。また、地方自治体などにより各地域における個別の規制が設けられている場合にはそれらに準拠し処理してください。



消火薬剤が衣服に付着した場合は、直ちに洗濯してください。時間が経過するとシミとなることがあります。



消火薬剤がペンキ塗装部当に付着した場合は、直ちに多量の水で洗い流してください。変色や腐食の原因になることがあります。



消火薬剤が眼鏡等または、プラスチック製品に付着した場合には、直ちに多量の水で洗い流してください。曇りまたは変色等の原因になることがあります。

ハイドラップとは...

「ハイドラップ」は、日本消防検定協会の型式評価に適合した消火機器です。

商 品 名 : 1号消火栓箱内蔵型 化学ユニット「ハイドラップ」
種 別 : 初期拡大抑制機器
型 式 : MFPP-5型
型式番号 : 特評第202号

「ハイドラップ」は、屋内消火設備の1号消火栓に化学消火能力を付加する消火機器です。

従来の屋内消火栓では、消火が困難であった油火災および普通火災と油火災の複合火災の消火に有効であると評価されました。

「ハイドラップ」の設置によって、火災のリスクが低減され、より安全で確実な消火作業が行えます。

ハイドラップは、型式評価に基づいた設置基準、試験基準および点検基準が定められております。本書にて内容をご確認のうえ作業を行ってください。

1. ハイドラップの特徴

● 油火災、普通・油複合火災に対する優れた消火能力を発揮します。

水成膜泡水溶液が発泡して、油火災を消火し、形成される水成膜により再着火を防止します。普通火災に対しては、濡れ性の向上により、効率よく可燃物を冷却し消火します。さらに、浸透性が向上し、深部火災や再燃焼防止にも効果を発揮します。

● 屋内消火栓に対して影響を与えません。

泡消火薬剤を放水流に混合するときに発生する圧力損失が非常に少なく、通常の水の放水に対しても影響を与えません。

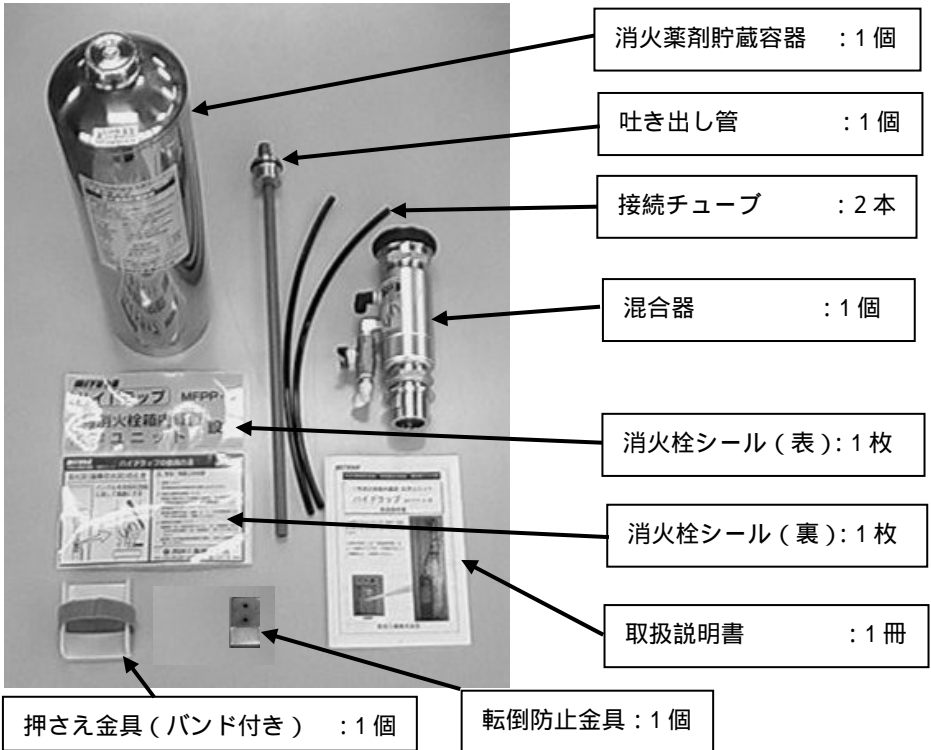
● 取り付け簡単、1号消火栓の箱の中に工事なしに設置ができます。

既設、新設を問わず、消火栓箱の加工（穴あけ等）やねじ止めもないので、工具も必要ありません。動力も不要ですから、電気配線工事も必要ありません。

● 泡水溶液と水の放水の切り替えが簡単に繰り返し行えます。

混合器に設けた切替弁（ボールバルブ）の操作だけで、切り替えが可能です。泡消火薬剤がなくなるまで繰り返し切り替えが行えます。泡消火薬剤がなくなった後は切替弁を操作しなくても水の放水がそのまま行われます。

2 . 同梱品



3 . ハイドラップの仕様

項 目	MFPP - 5 型
型 式 番 号	特評第 2 0 2 号
主 な 構 成 部 品	混合器、消火薬剤貯蔵容器、接続チューブ : 2 本
放 水 圧 力 範 囲 () 内は圧力損失	0.17 MPa(0.006 MPa 以下) ~ 0.7 MPa(0.02 MPa 以下) 1号消火栓設備に準拠
放 水 量	130 L/min 以上 1号消火栓設備に準拠
消火薬剤の種別、型式番号	水成膜泡消火薬剤 3 % 型、泡第 1 7 ~ 3 号(国家検定品) 商品名 : メガフォーム F - 6 2 3 T
消 火 薬 剤 貯 蔵 量	5 L
消 火 薬 剤 混 合 方 式	プレッシャープロポーション方式
消 火 薬 剤 混 合 時 間	約 2 分 (0.7 MPa 時) ~ 約 4 分 (0.17 MPa 時)
薬 剤 希 釈 混 合 濃 度	0 . 7 ± 0 . 2 %
放 水 可 能 な 泡 水 溶 液 量	約 7 0 0 L
放 水 切 替 方 法	水・泡水溶液切替弁のハンドル操作 (常時 : 水に設定)

4. ハイドラップの設置方法

まず、同梱品がすべてそろっているか確認してください。

準備するもの

正しく設置するために次の物を準備してください。

	準備するもの	用 途
1	チューブカッター (カッターナイフでも代用可)	接続チューブを適切な長さに切断するとき に使用します。
2	カッターナイフまたは、はさみ	バンドの切断に使用します。
3	油性ペン	目印を書き込むのに使用します。
4	定規または、巻尺等	接続チューブの差込寸法等を測るのに使用 します。
5	少量のシンナー	シールや押さえ金具を貼り付ける部分の油 分を拭き取るときに使用します。
6	拭き取り用の布	

設置手順

ハイドラップの設置は、次の順序で行ってください。

1 混合器の設置手順

はじめに消火栓開閉弁が閉じていることを確認して
ください。

消火栓開閉弁からホースをはずします。

消火栓開閉弁とホースは、差込式結合金具(マチノ
式)にて接続していますので、開閉弁側のリングを
ホース側に押し込みホースをはずします。

消火栓箱に押さえ金具を貼り付けますので消火栓箱の図
示の部分シンナー等を染み込ませたきれいな布等で拭
き、油分等の汚れを取り除きます。

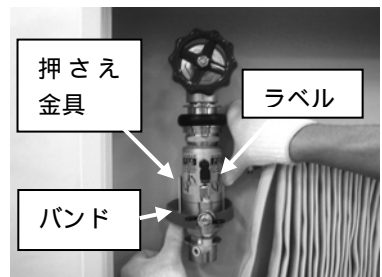
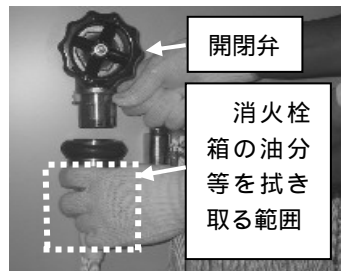
混合器を開閉弁に差し込み接続します。

混合器の差込式金具(めす側)を開閉弁にカチッと音が
するまで差し込み、混合器を下方に引っ張って抜けな
いことを確認します。

押さえ金具を消火栓箱に貼り付ける位置に目印を付けま
す。

注意：押さえ金具の裏面の粘着テープは、
強力なものを使用しております。貼り付ける位
置が確定するまで、保護テープ(透明)ははが
さないでください。

ラベル下端のすぐ下にバンドの上端がくるよう
に金具の貼付位置に目印を付けます。



ホースをはずした要領で一度混合器を開閉弁からはずし、押さえ金具裏面の保護テープをはがして押さえ金具を貼り付けます。

注意：押さえ金具の裏面の粘着テープは、強力なものを使用しておりますので、貼り直しが困難です。慎重に作業を行ってください。

貼り付けてから強く押し付けてください。

再び混合器を開閉弁に差し込み、混合器本体にバンドを巻き付けます。

ホースを引っ張ったときに混合器の差込式結合金具が破損しないようにバンドで押さえます。バンドがたるまない程度に混合器本体（アルミ円筒部分）に巻き付けます。

注意：バンドは、長めのものを同梱していますので、余分なバンドは、切断してください。余分なバンドがホース等に絡み付き引っ張られるとはずれることや機器が損傷する恐れがあります。



2 消火薬剤貯蔵容器の設置手順

消火薬剤貯蔵容器を設置する部分を決めます。

消火栓箱内の開閉弁の近くでホースを引き出すときの障害にならない場所を選定し、消火薬剤貯蔵容器を仮置きしてみます。消火薬剤貯蔵容器が傾いて設置されないことを確認してください。さらに、消火薬剤貯蔵容器と混合器が同梱されている接続チューブで余裕を持って接続可能な相対位置であるか接続チューブを合わせてみて確認してください。*

*接続チューブは、十分な長さ（40cm）で切断しておりますが、長さが不足する場合は、販売店または弊社お客様相談室にご相談ください。

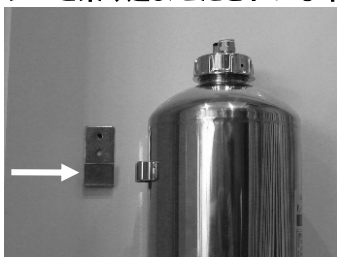
消火栓箱の消火薬剤貯蔵容器を設置する部分は、シンナーを染み込ませたきれいな布等で拭き、油分等の汚れを取り除きます。

消火薬剤貯蔵容器を固定する転倒防止金具を貼り付ける前処理です。

消火薬剤貯蔵容器を固定する転倒防止金具を消火栓箱に貼り付けます。

仮置きした消火薬剤貯蔵容器の掛け金具がある面を向け、そのまま、消火薬剤貯蔵容器を横に移動します。消火薬剤貯蔵容器の掛け金具のある高さを投影して、消火栓箱の設置する部分に転倒防止金具裏面の保護紙をはがして貼り付けます。

消火薬剤貯蔵容器の袋ナットを反時計回りに回してゆっくりとゆるめることにより、温度変化に起因する容器内の内圧を抜きます。



警告

内圧と大気圧に差がある場合は消火薬剤が飛散する恐れがありますので必ず保護めがね等を着用し、この作業を行ってください。

消火薬剤貯蔵容器の袋ナットをはずして、栓を抜きます。



注意

Oリングが口金に食い込んでいる場合があります。その場合は、口金を傷つけないように口金とOリングの間にプラスチック製のへら等を差し込み栓を持ち上げるようにしてはってください。

吐き出し管を取り付けます。

吐き出し管を消火薬剤貯蔵容器の口金部からゆくり挿入し、 はずした袋ナットをねじこみ取り付けます。袋ナットの締め付けは、工具を使わずに手できつめに閉めこんでください。



消火薬剤貯蔵容器を設置します。

消火薬剤がコネクタからこぼれないように静かに消火剤貯蔵容器を所定の位置に置き、マジックテープ[®]（黒）を結合させます。



3 接続チューブの取り付け

消火薬剤貯蔵容器に接続チューブを2本接続します。

注意：接続チューブは、コネクタに13mm差し込みます。あらかじめ接続チューブの差し込み側端から

13mmの位置に油性ペン等で目印を付けてからチューブを印の位置まで差し込み、完全に差し込まれているかをチューブを引っ張って確認してください。

混合器に接続する側の接続チューブの切断長さを決めます。

注意：接続チューブは、同色のコネクタ間を接続します。チューブが折れることなく接続できる長さにそれぞれ油性ペン等で目印を付けてください。

チューブの最小曲げ半径は、50mmです。チューブに一度折れ目が付くとチューブの強度が落ちて破裂する恐れがあります。

さらに接続チューブは混合器側のコネクタに13mm差し込みますので差し込み長さを考慮して切断寸法を決めてください。



接続チューブを切断します。

接続チューブを市販のチューブカッターまたは、カッターナイフを用いて切断します。

注意：接続チューブに切断面は、平滑でチューブに対して垂直である必要があります。

また、接続チューブは、差し込み部先端から2～5mmの部分の外周で機密性を維持していますので、その部分は特に傷を付けたりや変形させないように注意してください。



混合器に接続チューブを差し込みます。

注意：接続チューブをコネクタの色に注意して接続してください。また、13mm差し込まれていることを確認してください。さらに、チューブを引っ張って抜けないことを確認してください。

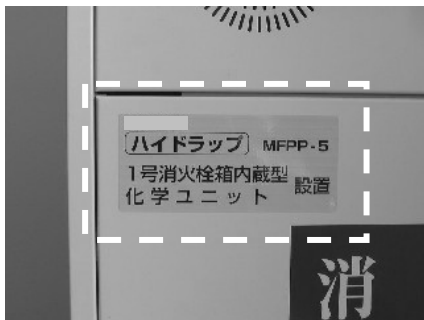
混合器にホースを接続します。

混合器の差込式結合金具（おす）にホースをカチッと音がするまで差し込み、ホースを下方に引っ張って抜けないことを確認します。

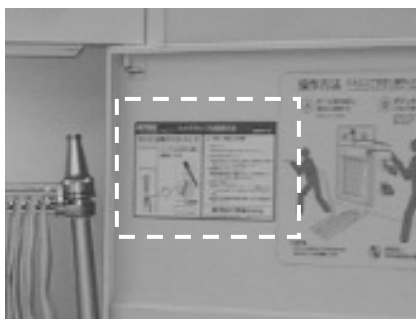


4 表示シールの貼付

消火栓シール（表）および（裏）を消火栓の扉表面と裏面の見やすい位置に貼り付けます。



消火栓シール（表）



消火栓シール（裏）

以上で、ハイドラップの設置は完了です。

ハイドラップは、日本消防検定協会・特定消火機器評価委員会が評価した製品です。評価結果に基づいた試験基準および点検基準があります。設置完了後は、試験基準に基づいた試験を行ってください。

5 . ハイドラップの使用法

ハイドラップは、1号消火栓の操作方を十分に理解していただいたから使用してください。

火災を起こしている可燃物を見極めて水または泡水溶液の放水を選択してください。

泡水溶液の放水は、特に油火災やプラスチック等水をはじきやすい可燃物の火災に対する消火に特に有効です。

1 1号消火栓の操作方法

ハイドラップを設置した1号消火栓から水を放水する場合の操作方は、ハイドラップを設置する前の1号消火栓の操作方法と変わりません。1号消火栓の操作方は、消火栓箱の扉の表面または、裏面に表示されておりますので事前に確認してください。

一般的な1号消火栓の操作方法

2人以上で安全に操作してください。

ホースをのぼし消火に向かう。

ボタンを押してバルブを開ける。



水を放水する場合（常時）の切替弁ハンドル向き：水平

2 ハイドラップを設置した1号消火栓から泡水溶液放水を行う場合

ハイドラップを設置した1号消火栓から泡水溶液を放水する場合は、ハイドラップを設置する前の1号消火栓の操作方法に加えて、ハイドラップの水・泡切替弁のハンドル操作が加わります。

泡水溶液放水を行う場合の一般的な操作方法

2人以上で操作してください。

水・泡切替弁のハンドルを矢印の方向に回して、ハンドルを垂直にする。

ホースをのぼし消火に向かう。

ボタンを押してバルブを開ける。



泡水溶液を放水する場合の切替弁ハンドル向き：垂直

3 水の放水と泡水溶液の放水の切り替え操作方法

水の放水と泡水溶液の放水の切り替えは、水・泡水溶液切替弁の操作で、泡消火薬剤貯蔵容器内の泡消火薬剤がなくなるまで繰り返し行うことができます。

注意：放水の切り替えは、切替弁の操作を行ってから水または、水溶液がホース内を流れていくため数秒時間がかかります。また、泡消火薬剤がなくなると切替弁の向きに関わらず水の放水になります。

6. ハイドラップの使用後のメンテナンス

ハイドラップの泡水溶液の放水を少しでも行った場合は、消防設備士による泡消火薬剤の全量詰替等のメンテナンスを行う必要があります。薬剤詰替えは、miyata 製詰替キットをお求めいただき、お求めの販売店または、弊社お客様相談室にお問合せください。

メンテナンス用品 モリタ宮田工業製「ハイドラップ泡消火薬剤詰替キット」

品番：MFPP5LT

詰替手順

容器上部の黒コネクタ、白コネクタの順でチューブを抜く。

図の黒矢印のようにコネクタ上部を隙間がなくなるまで下に押し下げた状態で白矢印の方向にチューブを引っ張ります。

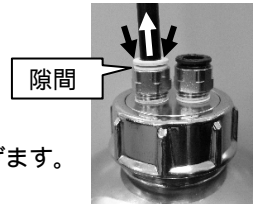
4.2 と同様に袋ナットを回して外し、吐き出し管を引き上げます。

容器内の液体（約 5L）を用意したバケツ等に全て出す。

液体が少しでも泡立つようであれば産業廃棄物として適正な処分をしてください。

詰替キットの消火薬剤を全量容器に灯油用のポンプなどを用いて泡立てないように充てんします。

4.2 からの手順を参考にチューブを接続し直せば詰替えが完了します。



《添付資料》

1号消火栓箱内蔵型化学ユニット「ハイドラップ」の評価結果（特評第202号） （抜粋）

3. ハイドラップの設置及び維持に関する基準

3-1 設置基準

ハイドラップは、1号消火栓に係る設置基準に準じるほか、次に定めるところによる。

- (1) ハイドラップは、消火栓開閉弁及び消防用ホースに確実に接続すること。
- (2) 混合器本体は、消防用ホースの展張時の引張荷重を支えるように消火栓箱に堅固に固定すること。
- (3) ハイドラップの消火薬剤貯蔵容器及びチューブは、1号消火栓の消防用ホースの収納及び展張を妨げない位置に設けるとともに、振動、衝撃等により転倒しないように固定すること。
- (4) ハイドラップを設置した1号消火栓の圧力調整は、水成膜泡水溶液が放水された場合における圧力損失を見込んだ圧力範囲とすること。
- (5) ハイドラップを設置した1号消火栓には、当該装置を設置した旨を表示するとともに、扉の内側の見やすい箇所に、操作方法及び注意事項を記載した銘板等を貼付すること。
- (6) 水・泡水溶液切替弁には、操作した旨がわかるように封印等の措置を行うこと。

3-2 試験基準

ハイドラップの試験基準は、1号消火栓に係る試験基準に準じるほか、次に定めるところによる。

- (1) 外観試験
 - ア 混合器

(7) 設置状況

a 試験方法

機器の設置状況を目視及び引張りにより確認する。

b 合否の判定基準

ア 変形、腐食、液漏れ等がないこと。

イ 本体が消火栓箱に堅固に固定されていること。

(1) 接続状況

a 試験方法

機器の接続状況を目視及び操作により確認する。

b 合否の判定基準

イ 消火栓開閉弁及び消防用ホースに的確に接続されていること。

ロ 水・泡水溶液切替弁の操作位置が「水」本放水の位置になっていること。

ハ 水・泡水溶液切替弁には、封印等がされていること。

イ 消火薬剤貯蔵容器及びチューブ

(7) 設置状況

a 試験方法

機器の設置状況を目視及び引張りにより確認する。

b 合否の判定基準

イ 変形、腐食、液漏れ等がないこと。

ロ 消防用ホースの収納を妨げる位置の設けられていないこと。

ハ 消防用ホースの収納を及び展張を妨げとならないように措置されていること。

ニ 消火薬剤貯蔵容器が消火栓に固定されていること。

(1) 機器本体の状況

a 試験方法

機器の設置状況を目視及び手で操作して確認する。

b 合否の判定基準

イ 消火薬剤貯蔵容器のキャップに緩み、締め込み不良がないこと。

ロ 表示銘板がはがれていないこと。

ハ 消火薬剤は、指定された検定品を使用されていること。

ニ 指定された量が貯蔵されていること。

ホ チューブに折れ、変形、ひび割れ等がないこと。

ヘ 同色のコネクタ同士が確実に接続されていること。

ト チューブは、消火栓開閉弁、消防用ホース及び水・泡水溶液切替弁の操作に支障がない長さであり、支障がないように取り付けられていること。

(2) 機能試験（放水に係る試験の個数は、1号消火栓の試験基準に準ずる。）

ア 試験方法

水・泡水溶液切替弁を「水」の位置にした状態で、1号消火栓における加圧送水装置の静水圧測定を行う。

イ 合否の判定

ノズルの先端の静水圧力が、0.17 MPa～0.7 MPaの範囲内にあること。

3-3.点検基準

ハイドラップの点検基準は、1号消火栓に係る点検の基準に準ずるほか、次に定めるところによる。

(1) 機器点検

次の事項について確認すること。

ア 混合器

- (ア) 変形、腐食、液漏れ等がないこと。
- (イ) 混合器の接続部の接続状況が適正で、かつ、容易に着脱できること。
- (ウ) 混合器本体が消火栓箱に堅固に固定されていること。
- (エ) 水・泡水溶液切替弁の位置が「水」放水の位置となっていること。
- (オ) 水・泡水溶液切替弁には、封印等がされていること。

イ 消火薬剤貯蔵容器及び消火薬剤

- (ア) 変形、腐食、液漏れ等がないこと。
- (イ) 消火薬剤貯蔵容器が消防用ホースの収納及び展張に支障がない位置に固定されていること。
- (ウ) 消火薬剤は、変質、著しい汚れ等がないこと。

ウ チューブ

- (ア) 折れ、変形、ひび割れ、液漏れ等がないこと。
- (イ) 同色のコネクタどうしが接続されていること。

エ 使用表示

適正に取り付けられていること。

(2) 総合点検（放水に係る試験の個数は、1号消火栓の点検の基準に準ずる。）

「水」放水時における放水圧及び放水量が適正な値であること。

3-4.点検要領

ハイドラップの点検要領は、1号消火栓に係る点検要領に準ずるほか、次に定めるところによる。

(1) 機器点検

点検項目	点検方法（留意事項は で示す。）	判定方法（留意事項は で示す。）
混合器	目視及び手で操作することにより確認する。	<ul style="list-style-type: none"> a 変形、損傷、液漏れ、著しい腐食等がないこと。 b 混合器が消火栓開閉弁及び消防用ホースから容易に着脱できること。 c 水・泡水溶液切替弁の位置が「水」放水の位置となっていること。 d 水・泡水溶液切替弁には、封印等がされていること。 封印がないまたは切れている場合は、消火薬剤量の点検を行うこと。

消火薬剤貯蔵容器及び消火薬剤	<p>a 消火薬剤貯蔵容器は、目視及び手で操作することにより確認する。</p> <p>b 消火薬剤は、消火薬剤貯蔵容器のキャップ部コネクタからチューブを黒色コネクタ側、白色コネクタ側の順ではずした後、容器キャップを外し、消火薬剤貯蔵容器の口金上端部から 80mm 下の消火薬剤をピーカーまたはメスシリンダーに採取（50ml 以下）し、目視により確認する。</p> <p>消火薬剤貯蔵容器のチューブをはずす場合及び蓋を開ける場合には、消火栓開閉弁が「閉」の状態となっていることを確認して行うこと。</p>	<p>a 変形、損傷、液漏れ、著しい腐食等がないこと。</p> <p>b 消火薬剤貯蔵容器が消防用ホースの収納および展張に支障がない位置に固定されていること。</p> <p>c 消火薬剤は、変質、著しい汚れ等がないこと。</p> <p>泡水溶液の使用後に消火薬剤を補給する場合にあっては、追加補給でなく新たな消火薬剤（同一の型式番号の消火薬剤）を詰め替えること。*1</p>
点検項目	点検方法（留意事項は で示す。）	判定方法（留意事項は で示す。）
チューブ	目視及び手で操作することにより確認する。	<p>a 折れ、変形、ひび割れ、液漏れ等がないこと。</p> <p>b 同色のコネクタどうしにより接続されていること。</p>
使用表示	目視により確認する。	消火薬剤貯蔵容器、混合器及び扉に適正に取り付けられていること。

*1 平成 22 年 4 月 1 日以降は、P F O S 非含有品に詰め替えること。

(2) 総合点検

点検項目	点検方法（留意事項は で示す。）	判定方法（留意事項は で示す。）
放水圧力	水・泡水溶液切替弁の位置が「水」放水の位置にして、ノズルの先端の放水圧力を 1 号消火栓の総合点検に準じて測定する。	ノズルの先端の放水圧力は、0.17(MPa) ~ 0.7(MPa)の範囲内にあること。 泡水溶液を放水した場合には、消防用ホース、結合金具及びノズルの内部の洗浄を行うこと。
放水量	放水量は、次の式により算出する。 $Q = KD^2\sqrt{P}$ Q : 放水量 (l/min) D : ノズル径(mm) P : 放水圧力(MPa) K : 定数(0.653)	放水量は、130(l/min)以上であること。
切替弁の操作	消火栓開閉弁を閉止した状態で、水・泡水溶液切替弁を操作し、切替状況を確認する。	切替操作が滑らかで、それぞれの操作位置に停止すること。 水・泡水溶液切替弁の操作後には、封印

等を行うこと。

アフターサービスについて

この取扱説明書に記載しました保管・点検管理・使用状態において、品質上の不具合等があった場合は、当該ハイドラップの無料修理または無料にて新しい製品とお取替えいたします。

[但し、耐用年数(製造から8年)を過ぎたハイドラップの無償交換はご容赦願います。] ご質問やご不明なことがありましたら、お求めの販売店または弊社お客様相談室へお問合せください。

モリタ宮田工業株式会社

〒253-8588 神奈川県茅ヶ崎市下町屋1-1-1

TEL (0467) 85-1210 (お客様相談室)

メンテナンス用品

モリタ宮田工業製「ハイドラップ泡消火薬剤詰替キット」 品番：MFPP5LT

キット内容 P F O S非含有泡消火薬剤：5L、水・泡切替弁封印シール、
P F O S非含有泡消火薬剤貯蔵表示シール、詰替え手順書

販売店

改良等により予告なく仕様、その他を変更する場合がありますので、ご了承ください。

HDRP 15.12.001